

## モーリシャス豆知識・小話 第12号

2018年4月  
在モーリシャス日本国大使館

### (1) 投資対象国としてのモーリシャス

この国は、大体5千万円相当の不動産投資をしたら、永住権がもらえるそうですね。知り合いのモーリシャス人からは、お前もここでヴィラでも購入したら日本に帰ってからいつでも好きなときに遊びに来れるぞ、と勧められます。思わずチラッと夢見る瞬間はありますが、冷静になって往復にかかる航空運賃のことなど考えるとなかなかねえ。



### 憧れの…

次元は違いますが、海外からの企業投資は活発なようですね。海外取引を行う企業への優遇税制、投資保護協定、二重課税防止協定、各地域機関への加盟など投資環境に資する様々な協定やネットワークを持つモーリシャス。そうしたアドバンテージに惹かれ、インドや南アフリカ市場をターゲットにして1万社を越えるオフショア会社がこの国に登録されているそうです。インド企業は特に多く、モーリシャスはインドの外国直接投資で第一位とのこと。中国も今後、当国を対アフリカ進出のバックオフィスとして大いに活用しようとしています。モーリシャスは観光産業を除けば、これから更にオフショア・ファイナンスに突き進んでいくのでしょうか。

そんな中私は最近、ポートルイス港にある水産物輸出会社を見学しました。マグロなどを零下数十度で保存、解体処理、水揚げから様々な処理工程をE Uの基準で適切に処理するなどトレーサビリティがしっかり確立した輸出体制となっていました。また空港近くのプレーン・マニエンは北海道を思わせる広大な

農場が拡がり、ここでサトウキビだけではなく野菜栽培などの商品作物が育てられていました。

他方で先般、モーリシャス商工会議所（MCCI）の第169回年次総会に出席したのですが（…。169回って?!）、MCCIは、2009年に441社あった輸出企業が2017年末までに280社に減ってしまったと産業の空洞化を懸念していて、今後新たな産業戦略を検討しているとのことでした。

その観点からか、最近モーリシャス経済開発評議会（EDB）などから当館へも、日本企業情報提供の依頼が増えています。日本企業の方々はモーリシャスへの投資をどう考えているのだろうか、何を期待するだろうか？ヴィラを買えない私としては、今後の日本企業の対モーリシャス投資を大いに期待しているところです。



水産加工工場にて、冷凍されたマグロ

## （2） ベスト・ルーザーとは？

スポーツなどでは負けっぴりのいい人はグッド・ルーザーと言われて評価されますが、政治の世界にも適用できるのですね。モーリシャスの国民議会の議席は定数70。もちろん各選挙区からの当選者が名を連ねるわけですが、それは62議席まで。後の8席は、なんと落選者の中から復活当選させる仕組みがあるようです。私もまだ不勉強で完全に理解しているわけではないですが、次点の候補者が繰り上げ当選するということかと思ったらそう単純なものでもなく、各コミュニティ間で公平且つ適切な代表を出すための知恵のようです。

確かに中国系などは人口の3%といわれ小さなコミュニティであるだけに、きっとまともに選挙の結果だけを重視したのでは落選続きでなかなか議員にはなれないでしょう。マイノリティーの声もきちんと国政に反映させたい、そう

した精神が感じられます。それがベスト・ルーザー・システム、補償議席というカテゴリーだそうです。様々なオリジンを持つ多民族国家としてバランスを取るための一種の知恵なのですね(最近の報道では、こうした制度の見直しの声もあるそうですが)。

そういえば、首相がマジョリティーのヒンズー系であれば、先般辞任しましたが大統領はムスリムでしたし、副大統領はインド系ではあってもタミール系、2人の副首相はキリスト教徒とイスラム教徒。おそらくそのうち選出されるであろう新しい大統領もバランスを取ってイスラム教徒ということになるのでしょう。こうしたところにも民族間の融和を大切にするレインボー・ネーション(とても素敵な言い回しですね)の面目躍如といった配慮がうかがえます。

なお、ルーザーと言っても国政の中で軽んじられるわけではないようです。例えばこのシステムで国会議員となったハヌマンジー国民議会議長は華やかなサリーを身にまとった美しいメガネ女子。国会ではマナーの悪い議員に対して容赦なく厳しい言葉を投げかけ、女王のごとく議場の秩序を守っているメインプレイヤーなのです。